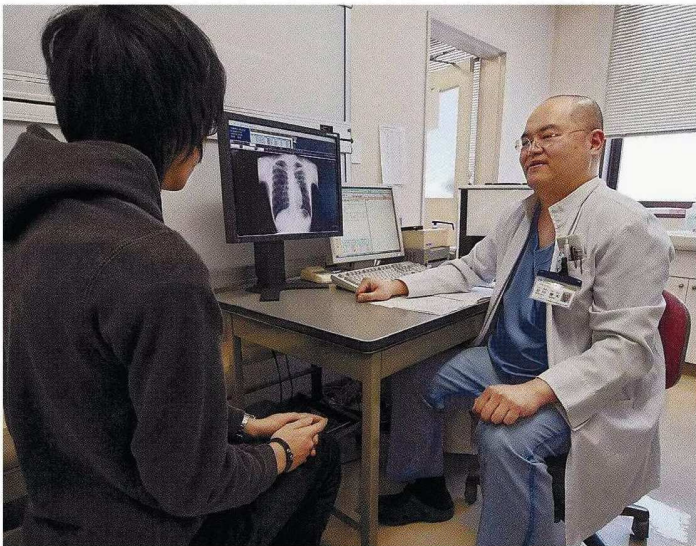


小樽協会病院（小樽市住
江1、柿木滋夫院長）が

小樽協会病院の「気胸部門」

通年で患者に対応

設置2ヶ月、20人治療



気胸の手術を受けた10代の患者（左）を診察する小樽協会病院の石川慶大医師

昨秋、呼吸器病センター内に新設した「気胸部門」が成果を上げている。突然の発作に苦しむ気胸の症状に対応し、年中無休の受け入れ態勢を整備。2カ月余りで約20人が治療を受け、健康を取り戻しつつある。

同病院の気胸部門は昨年10月、後志管内で初めて開設。これまで約20人が受診し、市外から救急搬送されたり他施設からの紹介で受診する患者も多い。治療は胸腔にたまった空気を抜く方法のほか、空気漏れしている肺の一部を切除する手術などを行う。

今月15日、昨年末に突然の胸痛で来院し、気胸の手術を受けた小樽市内の男子大学生（18）が、退院後初の受診に訪れていた。「通学中に初めて胸の激痛に襲われ驚いた。すぐに対応してもらえ、大学にも復帰できた」と笑顔を見せた。

呼吸器外科医の石川慶大同センター長は「一日中の外来診療時間外は市の夜間急病センターなどを通じて24時間365日受け入れている。気胸に悩む患者の助けになれば」と話している。

（元井麻里子）